

会 議 録

会議の名称	第4期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第3回会議録
開催日時	令和2年9月4日（金） 午後2時から4時
開催場所	田無第二庁舎 4階 会議室3
出席者	宮川委員 島委員 鈴木委員 長谷川委員 飯野委員 高木委員 長峯委員 山本委員 鎌田委員 今西委員 渡邊委員 八藤後委員 事務局 徳山副館長 安中主任
議 題	1 第2回会議録の修正について 2 計画策定の基本理念について 3 読書活動推進のための基本方針について 4 乳幼児を対象とした取組について 5 今後のスケジュールについて
会議資料の 名 称	資料1 令和2年度スケジュールについて
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

1 第2回会議録の修正について

修正箇所確認

2 計画策定の基本理念について

座長 先日議論をしたものを作成したが、第3期とそんなに変わらない。変えたポイントは2行目「急速に」を入れて緊迫感を出し、②に「黙読の」を入れ「声」と「黙読」の対比を入れたがどうか。1項目追加した④は、議論になったところを「多様化するメディア状況の中で、情報活用能力を身に着け、メディアを的確に使いこなすとともに、読書する自分を見失わない子ども」という言い方をした。リテラシーという言葉も出たが、新学習指導要領とすり合わせができるよう「情報活用能力」という言葉にした。読書する自分を見失わない子どもというのは、守りの姿勢であるのもう少し積極的でもいいと思う。再度ご意見をいただきたい。

委員 素案での基本方針（4）記載の「近年～」を、最後の段落「読書は多くの知識や教養を得るものとともに」という文章の前に入れてはどうか。

座長 事務局は「近年～」を「はじめに」に入れるつもりか。

委員 基本方針を整えたところ（4）以外は社会全体について触れずに作成している。この部分を入れると違和感があり、前段に入れたほうがいいのかと思い今回の配布案のようにした。基本理念はすでに作成されているので、「はじめに」に入れるほうが良いと考えた。

座長 基本方針は、具体的なところに橋渡しするところになるので、もうちょっと前の「基本理念」「はじめに」の部分にということか。

委員 「はじめに」は館長が書くが、基本理念を踏まえて作成したい（館長）とのこと。

座長 同じ文言はまずいが、内容が重なるのは問題ないと思うので、館長が「はじめに」を書いてくれると見通しが立つと思う。

情報活用能力と言っているのは、学習指導要領などでは電子メディアだけでなく、旧来からある紙の本も情報活用能力として含めているのか。

委員 学校図書館の図書資料として、活字の本に限らず様々な映像のものなどもそろえていくということもあるので、活字の本も含めていい。

座長 そうなると、メディアリテラシーと言っていることとあまり変わらないか。

委員 3期「はじめに」の「子どもにとって読書活動は本を読む楽しさ～」の段落に、言いたかったことが入っている。4期の「はじめに」にもそういうエッセンスが入っていればいい。

委員 基本理念の④は、情報活用能力を先ほどのメディアリテラシーとして入れ込んだということか。

座長 学習指導要領の総則の中に、情報活用能力を言語能力と同様に学習の基盤となる資質能力と位置付けるとある。メディアリテラシーという言葉はどういうふうにするか。情報活用能力と言語能力を合わせてメディアリテラシーと言ってもいいような気がするが、文部科学省の用語をどう使うか、世間で使われているメディアリテラシーという言葉を整理して、新しい④については考えてくる。追加してご意見があったら、どうぞ。

委員 「生涯読書人」という言葉に第3期では注記をつけた。「読書する自分」についても注記が必要か。

座長 「読書する自分」はキーワード的なので「」をつけたが文学的な言い方。こういう言い方が適切かどうかも含めて検討してくる。「」ははずしてもいいかもしれない。

委員 メディアリテラシーという言葉は私自身説明できないので、そのままここに載せるのはどうか。情報活用能力はなんとなくわかるが。

委員 小学校で教えている実情としての話だが、現場ではメディアリテラシー、情報活用能力、言語能力と分けて考えてはいない。国語力とは言わないかもしれないが、その子がこの先、生きていくのに必要な力としてまとめて指導はしている。メディアをうまく読み解いたり、利用する力が求められている。

座長 自分を発見する読書というのは、踏み込んでいい。見失わないことというのは消極的な気がするので、再考してくる。「はじめに」に入れるかも考える。

「メディア」という言葉が独り歩きして、わかったようなわからないような言葉だが、媒介という意味。新しく設けた④をもう少しバージョンアップしたい。

3 読書活動推進のための基本方針について

委員 基本方針だが、前回ご意見をいただいたところを修正してきた。(1) 3期に掲載した「子どもの本～」の一文は内容をよく説明しており残すということだったのでそのまま最初に記載した。(3) 「子どもの読書に関わる諸機関や市民団体およびボランティア等との連携の推進」の「および」を「・」に変更した。また、素案で削除していた関係諸機関の詳細を記載し、注記で説明できるようにした。また、諸機関や市民団体およびボランティア等との連携を書いていくうえで、子どもの本まつりの実施に関わるので記載した。(4) は最初の2行に結論づけるための調査の結果を用語解説か注記にまとめる。また、下から4行目「子どもにとって一番身近な家庭～」の「推進」を「充実」に変更した。(5) はそのままである。

委員 文章的などころだが、(1) 1行目「設定します」は「つくります」とし、また「子どもの身近なところで子どもの本の出会いの場を数多くつくります。」でどうか。

委員 (1) 「子どもの本の出会いの場～」だが、「子どもと」ではないか。ニュアンスが違う。

委員 3期は「と」だった。記載ミスである。「子どもの身近なところで、子どもと本の出会いの場を数多くつくります。」とする。

座長 ここに基本方針がいきなり入るが、前とのつながりが必要だと思う。「現在の状況の中で子どもと本との出会いはますます重要になっている」などもう一言念を押して入ったほうが良いかと思うが。

副座長 (4) に注記か用語解説をつけ、アンケートの箇所を掲載ということだったが、この量を注記で掲載はわかりにくいと思う。この考え方の根拠はこのアンケート結果を参考にした、とわかるように「資料」の掲載するのが良いのでは。

委員 資料に掲載する。

座長 今後、「はじめに」「基本理念」が完成すると、もう少し言葉も決まってくと思うので現段階で決めきれないことはある。学校図書館の箇所についてはどうか。

委員 言語活動・探究活動で集約し、学校図書館はそういう場であり、だからこそ司書教諭・学校司書の役割を充実していく必要があるということの方針として出そうと思う。また、様々なメディアに触れて子どもたちの読書活動を推進していくこともあるので、資料の充実を方針に出した。

座長 司書教諭・学校司書の役割の一層の充実と、図書館資料の一層の充実というのは明言しておかれるとよいと思う。

4 乳幼児を対象とした取組について

座長 今日新しくいただいた資料について説明はあるか。

委員 「乳幼児期について」はこれから作成をお願いしたい。図書館の「今後充実していく主な取組」のところの2つ目、母親学級でのPRとあるが、現在は母親学級とは言わずファミリー学級、マタニティーズという名称。健康課に確認したところ、来年度以降状況が整い次第、ちらしの配布の許可を得ている。また、前計画に引き続き推進していく主な取組のところ、図書館の絵本と子育て事業のことが欠けて

いたので、絵本と子育て事業（ブックスタート）と3歳児対象のフォロー事業の実施を付け加える。乳幼児施設の読書環境の整備も前回に引き続き、主な取組とする。

座長 何か質問、意見はあるか。

委員 保育園についてだが、保育所でなくていいか。法律的には、保育園という言葉はないが。

委員 施設の一覧では、公設公営も公設民営もあるが、ほとんどが名称的には保育園となっている。小規模のところは、保育室というところもあるが。

委員 一般的には、保育園というが、法律的には保育所だと思う。前回もそうだったようだが、他の市役所の関係機関の計画でどう扱っているのか調べておいた方がいいと思う。事務局で調べていただけるといいと思う。

事務局 確認する。

委員 平成30年に「保育所・保育指針」が10年ぶりに改訂されたので、確認が必要だが西東京市は保育園で通ってきた。正式名称は違うのかもしれない。

座長 基本理念の造語したところと言うと、乳幼児のところは「声の読書の時代」。黙読に移行するのは、小学校中学年だと思っている。声というのは、誰かが読んであげて、子どもが聞くということだが、なんとなく強調されるような見え方になるとよい。

委員 保育園で時間を決めて読み聞かせをしていることを書けないか。

座長 それは一斉の読み聞かせのことか。一斉の読み聞かせもあるが、遊びの中で個々にちょっと読んであげるのも日常的にある。

委員 乳幼児などは、抱っこをして、語りかけるように話すのが普通。だんだん年齢が上がってくると、集まって簡単なものなら聞いていられる。年長であれば、お昼寝の時に物語を耳で聞くようになる。小さければ小さいほど、1対1で読んであげる。

座長 読み聞かせの現場の様子が見えるような文章を入れてもよい。一人一人の身近な読み聞かせもあるし、集団の読み聞かせもある。集団の読み聞かせの意味は、仲間が同じ物語を共有するということ。そういうのもわかるといいのかもしれない。

委員 保育園で当たり前すぎることだが、ここに書かれていない日々の読み聞かせも項目として入れると、計画を読む人にとってはわかりやすい。

座長 保育園の選書はどうなっているか。

委員 クラスの担任が年齢にあったものを選んでる。また買い替えも行っている。

委員 保育園、幼稚園など集団に読み聞かせる時のおすすめ本リストなどを図書館で作っているか。

委員 リストは個人向けのものである。対象年齢別で、0歳から2歳児、3歳児以上向けとして、作成している。「はじめまして」という0歳から2歳児向けのものは、その中でもグレード別になっている。絵本と子育て事業（ブックスタート）の3～4か月健診でもプレゼントしている。大人数で読み聞かせする時のリストはなく、集団への読み聞かせの相談には、おはなし会で読んで好評だった本や読み聞かせの資料なども紹介している。

委員 家庭での絵本のおすすめ本のリストと違った、グループへの読み聞かせのリストがあってもいいのかなと思った。

座長 このリスト（「はじめまして」「えほんだいすき」）紙芝居は入っているのか。

委員 紙芝居は入っていない。

座長 おもしろい紙芝居を選べば、集団には紙芝居がいいと個人的には思う。

委員 今皆さんがおっしゃっていたように、対象や場を考えながらの選定があってもいいのではないかという気がする。幼児に向けた楽しい紙芝居もあるので、今後リストを作るのに工夫されたいと思う。

座長 リストというのは難しく、多くの人に安定して渡せるものを目指してしまうので、どうしても古典的になってしまう。今も子どもの本は毎年たくさん本が出ているが、今出ている本がうまくリストに入っていない。子どもの本は一世代ずつ遅れて、親の世代の本を今の子が読んでいるみたいなどころもある。リスト作りの冒険的なしくみをどうやって作るか、というのが実は問題と思っている。

委員 図書館がつくるリストの中のことが、いろいろな種類があると思う。読んでほしい基本リスト、新刊の案内リスト、秋の本のリスト等、いろいろな用途、いろいろな切り口のリストがある。いろいろなニーズに応えるリストを図書館で考えればいい。図書館としていろいろな本を紹介することも必要で、地味な本や古い本も掘り起こして手渡していくことも図書館の役割の一つだと思う。はやりの本や受ける本を紹介するだけではない図書館の役割を私たちは求めたい。

委員 図書館のHPにはテーマを決めて、〇〇の本ということで紹介しているので、そちらもどうぞ。また隔月で新刊本を紹介している「ドキドキわくわくあたらしい本」を作成している。

委員 ブックリストは多様なものを多様な機会にオンライン上も含めてであると良い。

座長 いろいろ発展したが発展した内容は今後生かしていけると思う。
乳幼児のところに戻って、何かあるか。

委員 第3期の構成では、読書環境の整備と読書活動と啓発と3項目に分けて更に新規・継続と分けたが、今回は施設ごとに新規と継続に分けた。この構成についても検討いただきたい。

委員 構成はこれでいいと思う。

委員 文言について、保育園の絵本コーナーの充実のところだが「繋げていく」はひらがなにした方がよい。児童館のところでは、同著者の本を「ご案内できるように」は「紹介できるように」でよい。乳幼児活動での読み聞かせの実施の部分だが「本を与える立場の親世代」という書き方は他の部分でしていないので表現を変えたほうがよい。

座長 「本を手渡す立場の」とかでいいのでは。ただ、大人が手渡しているということは大事なので、押さえておいてもいい。

委員 この話し合いで、親も大事ということが出たので、保護者ではなく、あえて親と表現した。こなれたいい言葉があれば、お願いしたい。

座長 表記については公文書としての表記があると思うがいかがか。

副館長 正確ではないが、フリガナや使っている漢字等はある。いただいたものと、確認するので、逆に縛られずに自由な意見をお願いしたい。

委員 小さい子が騒いだりして、慌てて図書館から出ていく様子の親子を見かけたことがある。図書館が乳幼児を持つ親子にもさらに居心地が良い場所になれば、じっくり本選びにも時間をかけられ、長年読みつがれてきた絵本や児童書、また新刊で現代の子ども達の実情に合った本を見つけるきっかけ作りにもなると思う。

委員 そういう時は児童館もご利用いただきたい。図書館ほどではないが、蔵書をそろえている。

委員 児童館にそれだけ本があるということを皆さん認知されているか。遊びに行くところというイメージではないか。

委員 これからPRをしていく。

座長 今日の書類にもそういうことが書いてあるか。ここで話している熱気とか楽しさのようなものが、文言に反映するので、今日の雰囲気を出しながら推敲することはいかがか。

委員 文言のところ、最後のページに「配架の仕方等を」とあるが「工夫」という言葉の方がいい。

座長 すべて「工夫」とも言える。

今後のスケジュールをお願いしたい。

5 今後のスケジュールについて

第4回 10月8日（木）午後2時から4時 田無第二庁舎 3階会議室

第5回 11月12日（木）午後2時から4時

第6回 12月4日（金）午後2時から4時

起草委員会

第1回 9月17日（木）午後2時から4時

第2回 10月15日（木）午後2時から4時

第3回 11月18日（水）午後2時から4時

市内小中学校図書館見学について

9月10日（木） 14時～ 田無第二中学校及び谷戸第二小学校

次回 会議の日程 10月8日（木） 午後2時から 田無第二庁舎 会議室3